

令和2年度 北海道森高等学校 経営シラバス評価表

☆各項目、職員回答の A：そう思う⇒4 B：どちらかというと思う⇒3 C：どちらかというと思わない⇒2 D：そう思わない⇒1 として平均を算出（2.5が基準）

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	評価平均		考察
					R 1	R 2	
教 育 活 動	学習指導	○学習習慣・基礎学力定着及び主体的学習態度の育成	①組織的で粘り強い指導による授業規律の徹底及び学習環境の整備	①共通理解と組織的な指導により、規律ある落ち着いた学習環境の整備ができたか。	3.0	3.0	全教員で共通した指導を実践することができてきているが、授業中の生徒の中抜け等がまだ多い状態である。落ち着いた環境で授業が展開できるよう、今後も指導を継続していきたい。
			②授業改善、評価方法の工夫による学習意欲の向上、基礎基本の定着	②生徒の実態に応じた授業改善、評価方法の工夫について組織的に取り組めたか。	3.1	2.8	新学習指導要領へ向けた授業改善・評価の観点を踏まえた授業のあり方について校内研修会を行ったが、旧態依然とした授業や評価を行っている教員も多く、改善している教諭との二極化が明確になっており、さらなる研修が必要である。
			③授業内容、学習方法の工夫による主体的な学びの育成	③講義のみに頼らない、学びを定着させるための工夫と改善がなされたか。	3.0	3.1	教科・科目によっては、すでに『主体的・対話的な深い学び』に取り組んでいる。新学習指導要領に向けて、教科を越えて横の繋がりを拡大させていく必要があるが、現時点では進んでいないのが現状である。
	生徒指導	○規範意識・公共の精神・社会性の育成及び豊かな心の育成	①保護者等と連携した組織的な指導による基本的な生活習慣の確立	①基本的な生活習慣を確立する指導が共通理解の下で行われ、公共の精神や社会性を育むことができたか。	2.9	2.8	各担任が保護者と連絡を頻繁に取り合うことで、生徒情報を共有しながら指導に当たっている。年次間の格差をなくすためにも、生徒指導部が中心となって情報共有に努めながら、全教職員が統一した指導体制を確立していく。
			②日常的な実態把握と情報共有、早期対応によるいじめや不登校等の未然防止	②全ての教育活動を通して豊かな心を育み、問題行動等の未然防止や早期対応を図ることができたか。	3.2	3.0	他人を傷付ける軽はずみな言動で、人間関係のトラブルを招くケースが数件見られた。部活動等で下地が培われる部分も多いが、本校の部活動加入率が低く、指導に困難さを感じる状況もある。
			③部活動、生徒会、ボランティア活動等への積極的な参加による帰属意識や社会性の育成	③部活動等への積極的な参加を通して、協働することの大切さを理解し、自己有用感を高めることができたか。	3.0	2.4	今年度はコロナ禍の影響が大きく、部活動の大会等はもちろんのこと、学校行事も中止や変更が重なった。ボランティア活動も全くできない時期があり、自己有用感の醸成につなげることは困難であったことから大幅に評価を下げた。
	進路指導	○キャリア教育の充実による望ましい勤労観・職業観の育成及び主体的進路決定力の育成	①小規模総合学科校としての特色あるキャリア教育の確立と実践	①キャリア教育計画の充実により、系統的で組織的なキャリア教育が行われたか。	3.0	2.9	キャリア教育計画の見直しを進め計画は立てたものの、コロナ禍により、計画通りの実施が不可能となってしまった。その結果、付け刃的な対応となったが、次年度以降に再度計画の立て直しを図りたい。
			②自己理解に基づき、主体的に進路を選択し、行動できる生徒の育成	②産社・C L、各種検査や模試結果の活用と面談等を通して生徒の進路適性を見極め、高い目標を目指す効果的な指導ができたか。	2.9	2.6	産社・C P等の内容精選及び展開方法を大幅に見直したが、学校行事の中止が相次ぎ、年度途中での再立案となった。年度当初の計画は全くの白紙となったため、次年度以降に改めて新計画を検証したい。
			③家庭や地域と連携した組織的な進路指導の推進	③関係機関と連携を密にし、適切な情報提供や組織的な進路指導が推進できたか。	3.0	3.0	地域企業の配慮もあり、コロナ禍の影響は最小限に抑えられた。ここ数年、進路実現を高い割合で果たしているが、生徒一人一人の人生設計を意識して、安易な進路選択にならないように留意しながら進路指導を推進していく。
	健康・安全指導	○心身の健康増進を図る環境美化意識・安全意識の向上	①生活習慣や心身の健康等、自立的な健康管理を促す指導の充実	①関係機関と連携し、心身の健康管理や望ましい生活習慣の確立に向けた意識啓発・指導を実施し、生徒の意識を高めることができたか。	3.2	3.0	新型コロナウイルス感染症対策では、情報が目まぐるしく錯綜する中、生徒への配慮を第一優先に取り組んだ。しかし、すべての生徒に対策を浸透させることは非常に困難であった。（マスク・手洗いの徹底など）
			②健康で安全な健全な生活を営むための安全指導の充実	②薬物乱用防止や防犯・交通安全指導、情報モラルの指導等を計画的に実施し、生徒の危機管理意識を高めることができたか。	3.3	3.0	行事のカットを余儀なくされた結果、例年どおりの取組ができず、やむなく中止した事業が多数あり、複数の事業を同日にミックスして取り組むこともあった。
			③日常の美化活動等を通じた学習環境、地域奉仕への意識の高揚	③環境整備及び美化活動が全校的・計画的になされ、校舎内外の美化が保たれたか。	3.1	3.0	校舎内外は比較的きれいだが、美化意識とともに公共心及び道徳心を育てる必要がある。通学路の花壇整備・校外清掃活動等、一定の成果を上げている。今後も継続した取組を行いたい。

学 校	信頼と活力のある学校づくり	○開かれた学校づくりの推進	①道職員として道民の負託に応えた信頼される学校づくり	①様々な機会を通して保護者や地域との信頼関係の構築がなされ、期待に応える教育活動を実践できたか。	3.1	3.0	生徒の登下校の様子や公共のマナーについて、外部から指摘を受けることは減少している。しかし、一部の保護者から教員の言動に対して不信感を抱かれるケースがあった。良好な関係を築くためにも、日常の職員研修を継続する。
			②本校教育活動についての情報の積極的な発信	②教育活動内容や成果を、保護者や地域へ適切に周知できたか。	3.2	3.0	保護者との情報ツール（さくら連絡網）の活用に着目したが、危機管理での活用がメインであった。学校からの便りなど、もっと積極的な情報発信を行いたい。
			③地域、異校種、関係機関との連携による教育活動の充実	③学習、生活、部活動、ボランティア活動等を通して連携・協力を図り、地域に貢献できる教育活動を行うことができたか。	3.4	3.0	コロナ禍により、例年と比べると大幅に活動が制限され、地域や関係機関とは連携をとることが困難であった。そのため、評価も大きく下がっている。
			④社会に開かれた教育課程の実現	④地域の教育資源を積極的に活用し、学習内容をより充実させることができたか。	2.9	2.9	年度後半はコロナ禍による制限もある程度解かれ、地域の教育資源（お金・物品・人材等）を校内での教育活動に活用した。担当者を中心にして充実した取組や実践を次年度も継続していきたい。
			⑤カリキュラム・マネジメントに資する学校評価の活用と改善	⑤教育計画・重点目標の達成状況が適切に評価され、教育活動の改善に活かされているか。	3.1	3.0	PDC Aサイクルを効果的に活用するには、保護者・教職員等からのアンケートをしっかりと分析することが必要である。次年度以降も具体的な方策をしっかりと立てて、確実に学校改善に活かしていく。
経 営	組織運営	○学校課題の共有と課題解決に向けた協働体制の確立及び業務の整理・効率化	①小規模総合学科校として学校力を向上させる、全教職員の経営参画と協働意識の充実	①将来像・課題等を共有し、全職員が協働しその実現・改善・解決等に向けて取り組むことができたか。	3.0	2.7	評価が下がった原因は、教職員全体が学校の将来像や課題を共有できなかったためだと考えられる。改めて、育てるべき生徒像を共通認識し、その実現に向けて問題解決に協働して取り組むための相互理解の場を設ける必要がある。
			①分掌組織、年次間の連携強化と働き方改革による業務遂行能力の向上	②働き方改革を踏まえた組織体制の整備と分掌・年次間の情報共有による業務の効率化、個人の能力の向上を図ることができたか。	3.0	2.8	管理職が中心となり、風通しのよい雰囲気づくりに努めた。しかし、一部で共通認識・共通理解すべき事柄が共有されていないのが実情である。また、明文化されていない部分をいかに共通認識を図るかが課題である。
			③団体会計や私費会計の適切な処理	③相互牽制が機能し、適切な会計処理等がなされたか。	3.4	3.5	学年、諸納金、検定料、実習費などの金銭処理については非常に煩雑な作業であるが、担当者一人一人が会計の適正処理に努めた結果、評価が上がったと考えられる。今後も適正な処理ができるように努めたい。
教職員の 資質向上	○服務規律の保持 ○組織的な研修体制の確立	①服務規律の保持及び危機管理能力の向上	①服務規律に係る様々な取組を通して「不祥事は絶対に起こさない」という意識を持ち、教育公務員としての職責を果たしたか。	3.6	3.5	日頃からの声掛けや職員会議の際の校内研修により、教職員の意識は高い。一人一人が、「不祥事根絶＝職場の使命」という強い決意のもと、今後も服務規律の保持に努める。	
		②教科指導力、生徒指導力の向上を図る効果的な研修の充実	②授業公開や授業評価等を活用し、授業改善に向けた取り組みを推進できたか。	3.1	3.2	新学習指導要領を意識した授業改善・評価方法の改善に向けた校内研修を実施した。改善に向けて二極化している部分もあるが、教員全体が深い学びへと導くような授業展開ができるように今後も研修を進めていく。	
		③校内外の研修会等への参加と成果の共有化	③資質向上に係る研修に積極的に参加し、その成果を他の職員と共有できたか。	3.3	3.2	コロナ禍により、校外研修への参加が制限される中、校内で取り組める研修への切り替えを行った。今後でもできるだけ研修機会を設け、教育効果を高めていく。	

教育活動U P 1項目／12
 教育活動DOWN 9項目／12
 学校経営U P 2項目／12
 学校経営DOWN 8項目／12